

公益社団法人日本臨床工学技士会
『学術論文作成の手引き』

平成27年5月（第3版）

公益社団法人日本臨床工学技士会

学術機構運営委員会

会誌編集委員会

前文

本『学術論文作成の手引き』は下記の2つの章から構成されています。

第1章：『会誌投稿に関する規程』

第2章：『論文作成ガイドライン』

第1章は本会の学術誌である「会誌」への投稿に関する一般的な取り決めの規程であり、具体的な原稿作成は第2章『論文作成ガイドライン』に準拠することとして取り決めていきます。また第1章は（案）となっておりますが規定のため総会承認事項となっております。平成27年総会に提出される予定です。しかし第2版の内規は現状にそぐわないため平成26年第2回理事会承認を以て案として提示しております。

今後、各位が論文作成等の機会において本『学術論文作成の手引き』をまず一読され、今後の学術研鑽過程の一環として寄与するように、常に傍らで“座右の小冊子”として活用して頂くことを期待します。

目 次

第1章 『会誌投稿に関する規程』	1
第2章 『論文作成ガイドライン』	3
おわりに（会誌編集委員長）	14

第1章 『会誌投稿に関する規程』

公益社団法人日本臨床工学技士会（以下「本会」という）は、「本会」が発刊する「会誌」への投稿に関し、以下のとおり定める。

1. 投稿の種類

「本会」が発刊する「会誌」への投稿の種類は、以下のとおりとする。

- 1) 日本臨床工学会の抄録集に掲載・発表されたものから、論文として掲載するために選択され、投稿されるもので、「要旨」を必要としない。
- 2) 日本臨床工学会の抄録集とは無関係に、広く投稿資格者の自由意志により投稿されるもの、及び会誌編集委員会の企画により、執筆を依頼されたものが投稿するもの。

2. 投稿内容

論文の内容は臨床工学に関するもので、会員に対して有益な内容であり、かつ今までに商業誌、海外雑誌を含めて他紙に発表されていないもの、あるいは投稿中でないものに限るものとする。また論文の内容については、個人情報保護の観点から容易に個人が特定されないように十分に配慮されたものに限るのは当然であるが、また利益相反がある場合は記載しなければならない。

3. 投稿資格

論文の筆頭著者は原則として「本会」会員とする。

4. 論文の作成

論文の作成あたっては本会『学術論文作成の手引き』に準拠すること。

5. 論文の体裁

論文の体裁にあたっては本会『学術論文作成の手引き』に準拠すること。

6. 著作権

会誌に掲載されたすべての著作物の著作権は、「本会」が帰属するものとする。

7. 論文原稿の送付先

本会『学術論文作成の手引き』に記載の事務局宛、または事務局が指定する会誌の編集委託先に送付されるものとする。なお、投稿原稿は返却しない。

8. 論文の採択

投稿論文の採択は学術機構運営委員会の審査（査読制）によって決定し、著者に通知する。査読により論文の修正が必要になった場合、著者は学術機構運営委員会が指定する期間内に必要な修正を行った上で原稿を返送しなければならない。

9. 校正

初校のみ著者校正とし、再校以後は編集委員会が行い、著者校正は原則1回とする。組版面積に影響を与えるような改変は認めない。

10. その他

他誌、Web あるいはメーカーカタログからの図表・写真を引用する場合、必ず著者、製作者の許可を得て、引用先を明記すること。

各メーカーの活動を妨害しないよう配慮すること。

「会誌」への掲載の時期は会誌編集委員会にて審議・決定するものとする。

附則

1. この規程は平成27年5月24日の総会で承認され平成26年11月1日に遡及し施行する。

第2章 『論文作成ガイドライン』

公益社団法人日本臨床工学技士会（以下「本会」という）への論文投稿にあたり、論文の体裁、論文の構成、受け付ける論文の種類、論文を書くときの正しい漢字および仮名書きにする語の表記、単位記号の記載例を示します。このガイドラインを参考に又、『会誌投稿に関する規定』に準拠した論文をご投稿ください。

1. 論文の体裁

1) 原稿の書き方

本会への論文投稿原稿は必ずパーソナルコンピュータを使用してください。投稿は印刷した原稿のほか、デジタル原稿も提出してください。提出するファイルの形式はマイクロソフト（以下、MS） Word形式を推奨します。

原稿用紙のページ設定は横書き A4 で一行 40 文字×36 行とし行間を十分あけてください。文中のフォントは編集時の文字化けなどを防止するため日本語は MS 明朝体、アルファベットは Century を使用してください。読点はカンマ「,」、句点はピリオド「.」を使用してください。頁番号を各頁下部に記載してください。

2) 図表の書き方

図表の作成にあたっては Word、Excel、Power Point、JPEG、GIF、または本会が認めたソフトで作成してください。図中の文字の手書きは避けてください。また写真は図として扱います。

図中のフォントは、原則として写真製版しますので使った文字がそのまま印刷されます。日本語は MS ゴシック、アルファベットは Arial など見やすい文字を使用してください。

図の表題は図の下に図番号とともに記入します。

表は、MS Excel や Word などで作成することを推奨します。表内に使用するフォントは原則として日本語は MS 明朝体、アルファベットは Century を使用してください。表の表題は図の上に表番号とともに記入します。

2. 原稿作成

1) 論文の種類（4. 臨床工学技士会で受け付ける医工学論文の種類参照）投稿する論文の種類を記載します。

- ・原著論文、総説、研究報告、症例報告、（学術機構運営委員会の査読審査によって掲載されます）
- ・解説（解説の依頼原稿など）
- ・発表論文（臨床工学会での発表内容の投稿）
- ・その他 研究速報、レター、調査報告、委員会報告

2) 表題

サブタイトルには前後にハイフンをつけます。

原著論文では英文のタイトルも記載します。

例 低温状態での...血流の検討 –流体三次元映像化装置の...おける応用–

3) 著者名

著者の所属が異なる場合には右肩に数字をつけて区別できるように記載します。

原著論文、総説、研究報告、症例報告、では英文での著者名も記載します。

例 鈴木一郎, 山田次郎, 青木三郎¹⁾, 三井四郎²⁾

4) 著者の所属

著者の所属が異なる場合には右肩に数字をつけて区別できるように記載します。

(ワードの「書式」の「フォント」の「文字飾り」で上付きにします)

原著論文、総説、研究報告、症例報告、では英文での所属も記載します。

例 日本臨床病院 臨床工学部, 日本 CE クリニック 透析センター¹⁾, 日本臨床病院 腎臓内科²⁾

5) 筆頭著者の所属機関連絡先

郵便番号 所在地

施設名 所属

電話番号 Fax 番号

E メールアドレス

例 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-4

日本臨床工学病院 臨床工学部

TEL: 03-5805-2515 FAX:03-5805-2516

Mail : office@ja-ces.or.jp

原著論文では英文での所属機関連絡先も記載します。

以上 1) ~5) を第 1 頁に記載して下さい。

6) 要旨

原著論文では 600 字以内の和文要旨と 200 語以内の英文要旨

その他総説、研究報告、症例報告の論文では 400 字以内の和文要旨

7) キーワード~索引用語

6 語以内 各語和文 10 字以内、アルファベット 20 文字以内

以上 6), 7) を改頁して続けて記載してください。

8) 本文

「5. 論文の構成」を参考に本文を記述してください。

文献の引用は本文の引用箇所の右肩に出現順に通し番号を付けてください。番号はワードの「書式」の「フォント」の「文字飾り」で上付きにします。

例 ...山田ら⁵⁾の研究では... ...との報告^{7,11)}もあるが... ...は数種¹²⁻¹⁵⁾の結果が...

9) 項目の番号の表示方法 項目の番号は次の順序で用います。ただし、項目が少ない場合はアラビア数字の記号から 始めてもかまいません。

(注：() のない記号は本文と混同しないように点「.」を付すか1字分のスペースをあける)

- 1. 2.
- 1) 2)
- (1) (2)
- ① ②
- A. B.
- a. b.

●本文の例

- 1. 目的
 回路内部での血栓形成の原因として...
- 2. 実験対象と方法
 - 1) 対象
 本実験の対象は...の A 群 (表 1) ...
 - 2) 方法
 - (1)実験回路
 実験回路 (図 1) は..
 - ①実験機材
 - (2)検討方法
 得られた数値を t-検定で...
- 3. 結果
 実験の結果を表 3 に示す...統計学的に有意な差が認められた.
- 4. 考察
 我々の実験結果は山田ら⁵⁾の実験結果と異なるが、これは...と考えられる.
- 5. 結論
 - 1) ...のため検証実験を行った.
 - 2) その結果...であった.
 - 3) この...は正しいと考えられる.

10) 文献 本文で引用した文献に番号をつけ箇条書きで記述します。

雑誌の場合

- 1) 著者名 (全員) : 論文名. 雑誌名 巻 (号) : 頁 (初頁一終頁), 西暦発行年

書籍の場合

2) 著者名 (全員) : 論文名. 書籍名 (編者名) : 頁 (初頁一終頁), 出版社, 西暦発行年

ホームページの場合

3) <http://www.jacet.or.jp/contents/gakkai/jyoho.html> (引用年月日を記載 : 西暦年月日)

11) 図表の表題原稿

本文に使用した図表の表題を簡条書きにします。図表に説明書きが必要な場合にはここに記述します。

図番号 : 表題「説明」

表番号 : 表題「説明」

例 図 1 : 実験回路「血液は貯血槽からポンプで実験対象に導き, …を経てから再び貯血槽に戻る」

図 2 : 実験設備全景

図 3 : 実験結果 (血流測定) ...

表 1 : 実験対象

表 2 : 低温での各部の血流量...

12) 図の原稿

図は本文とは別に、各々のファイルを用意し、本文中に挿入位置を明示してください。発表スライドをそのまま印刷することはできる限り避けてください。カラー印刷はできませんので、グラフなどはグレースケールで区別できるように配慮して作成してください。図の下部に図の表題を書き込んでください。

13) 表の原稿

表は本文とは別に、各々のファイルを用意し、本文中に挿入位置を明示してください。MSWordなどで下記の例のように Tab“タブ”と点線のみで簡単に書いたものでもかまいません。発表スライドをそのまま印刷することはできる限り避けてください。表の上部に表の表題を書き込んでください。

例 表 6 : 温度による血流速の実験結果 対象“タブ”低温時血流速“タブ”高温時血流速“タブ” (mL/min)

A群“タブ”	25.6 “タブ”	26.6
B群“タブ”	25.8 “タブ”	33.2

14) 論文の長さ

- ・原則として原著、総説、解説は本文 12,000 字、研究報告、症例報告は本文 9,000 字程度までとしますが、図表の大きさにより 1 枚につき 400 字程度減じてください。
- ・研究速報、レターほかは 4,000 字までとし、図表 1 枚につき 400 字程度を減じてください。ただし調査報告、委員会報告、依頼原稿はこの限りではありません。

3. 投稿方法

- 第1頁には論文の種類、題名、著者名、所属、連絡先が明記されていますか？
- 第2頁には要旨が400字（原著は600字）以内で記載されていますか？
- キーワードは規程どおり明記されていますか？
- 本文は1. 1) (1) ①の見出しで記述されていますか？
- 文献は規定の表記方法で列挙されていますか？
- 原稿には頁数が打たれていますか？
- 図表表題原稿はありますか？
- 原稿のコピーが2部ありますか？
- 原稿は左上部に大型のステップラーや綴じひもなどでまとめられていますか？
- デジタル原稿はWord形式で著者名のファイル名で保存してありますか？
- 図表もデジタル化して指定のファイル形式で保存されていますか？
- デジタル原稿の記録メディアに論文表題と筆頭著者名が記されていますか？

下記の要領で印刷原稿とデジタル原稿の双方を作成し提出してください。

1) 印刷原稿

投稿は図表を含む原稿（原著論文では原稿のほかに著者名、所属、連絡先を記載していない原稿のコピー2部、計3部）を印刷して提出してください。

2) デジタル原稿

電子データを収録したCD-RまたはDVD-R等の記録メディアも同時に提出してください。送付する記録メディアには論文タイトルと筆頭著者名を明記してください。原則として原稿、記録メディアは返却しません。

原稿（テキスト部分）はワードプロセッサの原稿ファイル（MSワード形式）を“筆頭著者”名+“論文”のファイル名（例 山田太郎論文）を付けて記録メディアに保存してください。同一年に複数の論文を本会に提出する場合には、論文が区別できるようにファイル名の最後に番号（例 山田太郎論文2）を付けてください。

“図”+相当する番号（例 図2）のファイル名で同一記録メディアに保存してください。

表をMS WordやExcelで作成した場合は、このファイルも提出願います。表は“表原稿”のファイル名で同一記録メディアに保存してください。それ以外の方法で表を作成した場合にはスキャナーなどでJPEG、GIF、PDF形式とし、“表”+相当する番号（例 表6）のファイル名で同一記録メディアに保存してください。

3) 提出前のチェック

下記のチェックリストに従い、確認の上、送付してください。

4) 送付

原稿（原著は原稿のほかにコピー2部）と記録メディアを送付記録の残る書留郵便あるいは宅配便で下記、または事務局が指定する会誌編集委託先にお送りください。

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-4 KT お茶の水聖橋ビル5 F
(公社) 日本臨床工学技士会 事務局 学術機構運営委員会宛
TEL : 03-5805-2515

4. 臨床工学技士会で受け付ける医工学論文の種類

1) 原著論文 (original)

自身の研究成果をまとめたものが原著論文です。何らかの新知見を含むことが必要です。
(公社)日本臨床工学技士会で最も権威のある論文です。原著論文として投稿された場合には、臨床工学技士会学術機構運営委員会で審査して掲載を決定します。

2) 総説、解説 (review)

ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を紹介するものが総説です。多くの参考文献を添えるのが特徴です。

3) 研究報告、症例報告、発表論文等 (report)

珍しい臨床経験や新しい医療機器の使用経験、研究のまとめなどの報告です。
日本臨床工学会の発表内容のまとめなども論文として受け付けます。

5. 論文の構成

実験的研究論文では、各章の標題として、通常下記の用語が用いられます。以下に各標題の内容について説明します。総説は論旨が明確であれば、4) から 8) の項目については、これにとらわれずに構成されていてもかまいません。

1) 論文題名 (title)

題名だけで内容がほぼ想像できて簡潔なものが理想です。題名に副題 (subtitle) を付けることはなるべく避けたほうが良いとされていますが、副題を付けることにより、論文全体の内容を示す場合もあるので、絶対に不必要とは言えません。

2) 要旨 (abstract, summary)

実験やシステムの開発、新しい技術、理論などを本文とはまったく独立のものとして書きます。ここには議論や解釈、文献の参照や図表は使わずに、論文の中心課題と本文の要点を手短かに書いた文章でまとめます。要旨(要約)はほぼ学会演題の場合の抄録にあたるものと理解してください。

3) 索引用語 (key words)

本文の内容に関係のある単語を数個列記します。単語は題名に含まれていなくて、論文の要素として重要なものがよいとされています。

4) 緒言 (introduction)

研究の目的や目標 (新しい理論や原理の論究、原理の応用、装置やシステムの開発、改良など)、問題の定義、論文で取り扱う範囲、論文の背景、歴史的概観、関連研究などを述べます。研究史を含ませることがあり、研究方法が新しく開発したものであれば詳しく説明します。緒言の代わりに『まえがき』、『はじめに』を使用することもあります。ただし、これに対応して『まとめ』『おわりに』を用います。

5) 研究材料と方法 (materials and methods)

研究計画、研究の状態や条件、研究対象、対象を選ぶ方法、介入方法、すべての観察項目の明示、データ評価の統計的処理法について詳しく記載します。

6) 研究結果 (results)

客観的データで、文としては過去形で書き、本文のほかに図や表を含みます。

7) 考察 (discussion)

他人の成績 (文献) と比較しながら、自分の成績の意味を説明し、自分の考えを主観的記述による現在形で書きます。

8) 結論 (conclusion)

実験成績と考察のまとめを主としますが、実験方法に少し触れる場合もあります。しばしば箇条書きにされます。総括的なことを述べ、序論で提起した問題に本論でどのように答えたかをまとめるとともに、理論や結果の正当性、有意性 (利点だけでなく欠点も含む)、他の研究との違い、応用性、今後の課題などを述べます。『結論』は、独自の理論や原理を扱った論文に用いることが多く、『まとめ、おわりに』は、解説的、一般的あるいは実用的な論文などで、考察の結果を一言で表現できる場合や、緒言で何か疑問を提起し、それに対して yes or no で結ぶときに使われています。

9) 文献 (references, literature)

論文に関係し、本文中で引用したものを書きます。文献は全編を通じて出てきた人名とその論文の出所を記録します。

6. 漢字および仮名書きにする語について

論文を書くに当たり、一般的に仮名書きする語、なるべく仮名書きする語、原則として漢字を使用する語、および正しい送り仮名を表にまとめてみました。論文を執筆されるときの参考にしてください。

1) 漢字を用いてはいけない例

宛も	あたかも	如く	ごとく	只	ただ
或る	ある	之	これ	唯	ただ
如何なる	いかなる	毎に	ごとに	忽ち	たちまち
何れ	いずれ	併し	しかし	兎に角	とにかく
所謂	いわゆる	而し	しかし	丈	だけ
於て	おいて	頗る	すこぶる	誰	だれ
凡そ	およそ	即ち	すなわち	乃至	ないし
及び	および	総て	すべて	尚	なお
却て	かえって	折角	せっかく	何故	なぜ
斯く	かく	其の	その	成る可く	なるべく
此	ここ	それ等	それら	の外	のほか
茲に	ここに	為に	ために	諮る	はかる

筈	はず
殆ど	ほとんど
略	ほぼ
先ず	まず
迄	まで
寧ろ	むしろ

勿論	もちろん
尤も	もともと
以て	もって
矢張り	やはり
稍	やや
由って	よって

判る	わかる
吾	わが
僅かに	わずかに
亘り	わたり

2) なるべく仮名書きする語

且つ	かつ
が在る	がある
が無い	がない
殊に	ことに
する事	すること
する時	するとき
する程	するほど

その位	そのくらい
それ故	それゆえ
但し	ただし
就いて	ついて
出来る	できる
で良い	でよい
と言う	という

と共に	とともに
又は	または
全く	まったく
若しくは	もしくは
の通り	のとおり
の処	のところ
の様に	のように

3) 原則として漢字を使用する語

あかるく	明るく
いたって	至って
いっさい	一切
おおいに	大いに
おそらく	恐らく
かならず	必ず
かれ	彼
かろうじて	辛うじて
きたす	来たす
きたる	来る
きわめて	極めて
がいして	概して
ぐうぜん	偶然

げんに	現に
さらに	更に
さる	去る
すこし	少し
すでに	既に
そのさい	その際
たいてい	大抵
たえず	絶えず
たがいに	互いに
たとえば	たとえば
ついで	次いで
つぎに	次に
つとめて	努めて

つねに	常に
とくに	特に
とつぜん	突然
なに	何
のばあい	の場合
はじめて	初めて
はたして	果たして
ふたたび	再び
もともと	最も
もっぱら	専ら
わがくに	我が国
わたくし	私
われわれ	我々

“最も”は最上級を表す時は漢字で、“ただし”の意味で使う時は仮名書きにします。“並びに”、“又は”などの接続詞を漢字の直後に使うと、漢字の続きとして読まれる心配があるので、漢字直後の場合だけ仮名書きにします。

4) 正しい送り仮名

明らかに	あきらかに	新しい	あたらしい	謝る	あやまる
鮮やか	あざやか	侮る	あなどる	表す	あらわす
味わう	あじわう	危ない	あぶない	著す	あらわす
暖かい	あたたかい	誤る	あやまる	現れる	あらわれる
著しい	いちじるしい	偏る	かたよる	冷たい	つめたい
偽る	いつわる	必ず	かならず	貫く	つらぬく
承る	うけたまわる	汚い	きたない	滞る	とどこおる
失う	うしなう	異なる	ことなる	伴う	ともなう
促す	うながす	断る	ことわる	懐かしい	なつかしい
占う	うらなう	盛んに	さかんに	働く	はたらく
潤す	うるおす	従う	したがう	翻す	ひるがえす
補う	おぎなう	少ない	すくない	短い	みじかい
行う	おこなう	速やかに	すみやかに	難しい	むずかしい
幼い	おさない	損う	そこなう	群がる	むらがる
恐ろしい	おそろしい	平らに	たいらに	珍しい	めずらしい
陥る	おちいる	確かめる	たしかめる	専ら	もっぱら
顧みる	かえりみる	賜る	たまわる	軟らか	やわらか
輝く	かがやく	慎む	つつしむ	煩う	わずらう

7. 臨床工学技士会で使用している単位記号

1) 長さ

キロメートル	km
メートル	m
センチメートル	cm
ミリメートル	mm
ミクロン (10 ⁻⁶ m)	μ
オングストローム (10 ⁻¹⁰ m)	Å

4) 質量

トン	t
キログラム	kg
グラム	g
ミリグラム	mg
マイクログラム	μg

2) 面積・体積

平方メートル	m ²
平方センチメートル	cm ²
立方メートル	m ³
立方センチメートル	cm ³

5) 圧力

平方センチ当たりキログラム	kg/cm ²
平方センチ当たりの重量	gw/cm ²
水銀柱メートル	mHg
水銀柱ミリメートル	mmHg
水柱ミリメートル	mmH ₂ O
パスカル	Pa
ヘクトパスカル	hPa
メガパスカル	MPa

3) 容積

キロリットル	kL
リットル	L
デシリットル	dL
ミリリットル	mL
マイクロリットル	μL

6) 速さ

毎時キロメートル	km /h
毎秒センチメートル	cm /sec
1 分間回転数	rpm

7) 率

パーセント	%
パーミル	‰
パーデシミル	‱

8) 時間

年	yr
月	mon
日	day
時	hr
分	min
秒	sec
ミリ秒	msec

9) 度数

度 (角度)	°
分 (角度)	'
秒 (角度)	"

10) 温度

摂氏	°C
華氏	°F
絶対温度	°K

11) 熱量

カロリー	cal
キロカロリー	kcal
ジュール	J

12) 濃度

モル	Mol
ミリモル	mMol
ミリエキュバレン	mEq
規定	N
100 万分の 1	ppm

13) 光度

カンデラ	cd
------	----

14) 電流

アンペア	A
ミリアンペア	mA
マイクロアンペア	μA

15) 周波数

ヘルツ	Hz
キロヘルツ	k Hz
メガヘルツ	MHz

16) 電力

ワット	W
キロワット	KW

17) 電気

クローン	C
ボルト	V
オーム	Ω
ファラッド	F

8. SI 接頭語

接頭語	記号	倍数
エクサ	E	10^{18}
ペタ	P	10^{15}
テラ	T	10^{12}
ギガ	G	10^9
メガ	M	10^6
キロ	k	10^3
ヘクト	h	10^2
デカ	da	10^1

接頭語	記号	倍数
デシ	d	10^{-1}
センチ	c	10^{-2}
ミリ	m	10^{-3}
マイクロ	μ	10^{-6}
ナノ	n	10^{-9}
ピコ	p	10^{-12}
フェムト	f	10^{-15}
アト	a	10^{-18}

おわりに

我々、臨床工学技士は医学と工学の知識をあわせ持ち、臨床現場において幅広く生命維持管理装置の操作と保守点検を業務とすることで、医療の質と安全の向上に寄与し、社会に貢献するという特殊専門職であります。そのことについては、皆様もその意識を広く共有されていることと思います。

しかし、日々の仕事が単調なルーチンワークにすぎないように見えたり、自分の気持ちがつまらなさやうんざりするような瞬間がしばしば訪れます。仕事に対する「やりがい」が失せてしまうように感じられることもあります。ところが、同時に臨床現場は宝の山でもあります。もう一度現場に目を向けてよくよく観察してみますと、小さな疑問が、しかもどこを調べても納得のゆく回答のない疑問が、必ずころがっているものであります。「どうしてだろう？ なんでだろう？」と、それは小さなものですが、それを大きく膨らませて、想像力を豊かにして、周囲にアンテナを張り巡らせて根気よく追求して行きますと、一個の学会演題に結実することがあります。ただ、学会で発表したというそのことだけで満足せずに、さらに後世に残る「仕事」とすることを考えるよう、強くおすすめします。研究の成果を是非とも活字にして、本にするということは、たとえ、我々がこの世からいなくなった後にも、たとえば世界中の大学病院の図書館に半永久的に我々の仕事を論文という形で残すことができるのです。素敵だと思いませんか！

ですが、広く世の中の人々に読んで頂くには、書き方、規定に一定のルールがありますし、いくら貴重な研究内容でもそれを逸脱するものは、世界では認められないのです。

今回、本「学術論文作成の手引き」は3回目の改訂を行うこととなりました。本手引きは、より細やかで、親切で頼りになるものに仕上がっているのではないかと自負しております。

皆様の論文作成の一助になりますれば幸いです。

(公社) 日本臨床工学技士会
会誌編集委員長 柴田昌典

『学術論文作成の手引き』

平成 19 年 4 月 1 日 初版発行
平成 20 年 1 月 31 日 初版改訂発行
平成 21 年 5 月 11 日 第 2 版発行
平成 26 年 11 月 1 日 第 3 版発行

発 行 公益社団法人 日本臨床工学技士会
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-4
KT お茶の水聖橋ビル 5F
TEL.03-5805-2515 FAX.03-5805-2516
